

## 第1回鳥栖市市庁舎整備基本計画策定委員会議事録

と き：平成29年6月22日（木）14時～

ところ：鳥栖市役所2階第1会議室

### 1. 開会

### 2. 市長あいさつ

### 3. 委嘱状交付

### 4. 委員長・副委員長の選出

委員長：三島伸雄（佐賀大学大学院工学系研究科教授）

副委員長：半田紀久郎（鳥栖市区長連合会副会長）

### 5. 市庁舎整備の基本的考え方について

（事務局）

説明

（齊藤委員）

起債（市町村役場機能緊急保全事業）の事業年度が平成32年度までの4年間となっているが、平成32年度までに完成しなければならないということか。

（三島委員長）

市庁舎整備の基本的考え方でのスケジュールでは平成33年度完成に対して、起債は32年度までとなっているが、そのあたりの整合性について説明をお願いしたい。

（事務局）

先ほどの起債を活用するのであれば平成32年度の計画を作成する必要がある。先ほど言われたのは、平成29年1月時点でのスケジュールであり、今回新たな起債が出たためこの活用を考えており、基本計画策定の中でスケジュールについても再度検討していきたいと考えている。

（三島委員長）

スケジュールを1年間前倒し、そのための事業方法とかやり方について検討してほしいということか。

（事務局）

はい。

（齊藤委員）

会議所メンバーで話したが、現在示されているスケジュールは妥当だとしつつも、それでもギリギリだという意見だった。起債を活用するための32年度完成は、建設業者含むメンバーからも現実難しいだろうということであったが、その点どうか。

（事務局）

今回の基本計画策定支援業務として、専門業者に業務依頼することになっているが、その中で専門的観点から提言いただく予定としており、事業年度、事業手法も合わせて検討させていただきたい。

（齊藤委員）

今日の時点では、まだ確定していないということか。

(事務局)

事務局では有利な起債の活用を念頭に現時点で考えているところであり、それを考えれば事業年度は平成32年度となる。

(三島委員長)

多分かなりギリギリの計画だと思うが、設計から建設までをいかにスムーズにやるかにかかってくると思う。

設計・施工を一括発注するデザインビルド方式やPFI方式など、専門的な検討も合わせて必要だと思う。

それによりどれだけスケジュールを圧縮できるか、今後加わってもらふコンサルでも検討していただけたらと思う。

(齊藤委員)

この起債を採用することで窮屈なスケジュールになっているのではないかとと思う。

起債の活用が、スケジュールでのポイントとなっていると思うので、何でこれを優先しなければならないか、鳥栖市にとってどんな魅力があるのか、分かりやすく教えてほしい。

(事務局)

2点あるが、ひとつは起債の充当率がこれまで75%だったものが90%となっていること。もうひとつは、交付税として措置されるということ。

地方交付税で措置されるというのは、地方交付税の計算の時に、90%のうちの75%、さらに元利償還分が30%、計算すると建設総額の約20%。例えば、100億の建設費であれば、そのうち20億が交付税として国から措置されるということになり、金銭的なメリットがあるという2点である。

(齊藤委員)

交付税で措置されるので、それをいただくということだと思う。それは有り難い話だ。

(三島委員)

これがなければ75%しか起債できない。残りの25%は何らか予算化しなければならない。なおかつ交付税がこないという理解でよろしいか。

(事務局)

はい

(齊藤委員)

昨日、会議所でスケジュールを検討した段階で、これを1年縮めることはまず不可能ではないかという意見を聞いた。建築だけの話でなく、本当に急ぐのであれば土地の選定含めて手法から含めて一番スピーディーな方法を選択する必要があるのではないかと。

全てに関係してくると思うので、きちんとした説明があった方が今後の議論の中には有りがたい。

(事務局)

昨日、基本計画策定支援業務のプロポーザルのヒアリングを行ったが、参加された業者からは、期間について十分検討できるとの話はいただいている。

(古川委員)

事業年度が32年度までということは、竣工が32年度までということでしょうか。

(事務局)

計画では、32年度竣工となる。

(齊藤委員)

32年度までに完成させなければいけない。そういう理解でよいか。

(事務局)

計画は32年度完成です。

(三島委員長)

通常、補助金などの場合、天災など余程の事情がなければ年度内に終らせなければならない。

計画としては、しっかり終らせる計画を作らなければならない。

(齊藤委員)

できるならば良いが、私は素人なのでよく分からないが、どこを縮めれば良いのかと。

(三島委員長)

設計と建設を一体に行うデザインビルド方式であれば、通常は設計した後に工事発注となるが、設計において必要な工事に関係ある情報を先取りして、できるだけスムーズに工事ができるようにすることができる。

それでも1年縮めることはなかなか厳しいので、他のところでも少しでも早めに進めるための方策も考えなければいけないかと思う。

今後、コンサルにも加わってもらって、専門的な考えを伺いながら進めることになると思うので、この委員会ではコンサルの意見などを伺いながら方策を見いだしていきたい。

(齊藤委員)

この起債を活用することで事業年度が決まってしまうことになり、土地の選択など急ぐこととなるなど他にも影響するので議論が狭くなるのではないかと。何を優先するのが重要だと思う。

## 6. 市民アンケートについて

(事務局)

説明

(古川委員)

質問で「〇は3つまで」と示されているが、3つにしている理由は。

(事務局)

優先順位の高いものという捉え方で、〇は3つまでとしている。

(芹田委員)

アンケートの作成から集計まで、全て市の職員で行う予定なのか。

と言うのも、アンケートを分析する時に、例えば、[問11]の「2. だれもが利用しやすい、高い利便性を備えた庁舎であること」のような漠然とした設問であれば「それはそうだよね」となると思うが、「1. 災害対応拠点を充実すること」であれば表現が具体的で、異質な選択肢が混じると分析し難いのではないかと思う。

(事務局)

漠然とした内容となっているので、委員のご意見を踏まえ、明確となるよう再整理したい。

(芹田委員)

今のようなことを踏まえ、3つ選んでもらった方がよいのか、1つが良いのか変わってくると思う。

(古川委員)

「何を優先されますか」という聞き方の方が良いのではないかと。○は3つまで

(三島委員長)

先ほどの「何を優先されますか」という聞き方をするなら、例えば「1. 防災性（災害対策を充実させる）」「2. 利便性（誰もが利用しやすい庁舎とする）」「3. 経済性（財政負担を少なくする）」など、パッと分かった方が答えやすいと思う。

(事務局)

設問の仕方については、委員のご意見を参考に、もう一度整理させていただきたい。

(古川委員)

アンケートの中身については、もうこの場で整理しないと時間がないのか。

(事務局)

本日の委員の意見を踏まえ、庁内で再度整理ができ次第実施したいと考えているので、できるだけご意見をいただきたい。

(三島委員長)

〔問6〕までは一般的事項である。〔問7〕は経験で答えるのであれば、表現の仕方を工夫する必要がある。

(芹田委員)

〔問10〕は、○を3つとしてしまうとデータとして分かりにくい。どれも重要なのでどれか一つとしたほうが良いのでは。

(三島委員長)

アンケートの位置づけは、あくまで計画策定の参考データとしての認識でよろしいか。

(事務局)

今後の計画策定の参考とさせていただきたい。

(三島委員長)

先ほどの意見にあったように、○を3つまでとすると設問によっては何が優先順位が高いのか分かりにくい。

(芹田委員)

〔問12〕で聞かれている市庁舎の機能は、市として最低限持つべきものとして聞かれていると思うが、市民も利用できる会議室など市民が求める付加価値的なものは含まないのか。市民としてはそのあたりがあれば記入する上で想像しやすいとイメージするが。

(事務局)

市民の方が思われる付加機能として「あったらいいな」は〔問13〕で受け止めたいと考えている。

(三島委員長)

付加機能は〔問13〕に記入するのか。

(事務局)

個別的、具体的な考えられる機能、例えばお店的なもの等は〔問13〕で意見をいただくことを考えていた。

(三島委員長)

〔問 1 2〕は通常備えておくべき庁舎としての機能は何かということか。

(事務局)

より充実させたほうが良い項目という意味でお尋ねしている。

(三島委員長)

もう少し分かりやすい設問に変えた方が良いと思う。

(古川委員)

〔問 1 0〕と〔問 1 2〕の設問が被っていないか。建て替え場所で聞かれ、また庁舎機能で聞かれているものがある。

「交通の利便性が高く」など当然あるべき機能ではなく、別の機能で深掘りした方が答えやすい。

(三島委員長)

バス・タクシーの停留所、待合場所は市で整備するのか。

(事務局)

場所の確保のイメージ。現在、乗り降りの停車位置が庁舎近くにない。

(古川委員)

何が欲しいかといったら、土日に窓口が空いていたら便利だと思う。新しい庁舎の機能として土日受付の窓口が完備されているのが好ましい。福岡市ではあり、佐賀銀行でも土日対応窓口があり好評。

今示されているのは当然考えられることであり、新庁舎では何を指すのか、新しいことを入れた方が良いのでは。

(事務局)

平日の時間延長、繁忙期の土曜開庁など行っているところであり、窓口機能の在り方、充実については今後も引き続き検討していきたい。

(三島委員長)

今の古川委員の質問の趣旨は、当然あるような機能ではなく、市庁舎建設を機に、これまでになかった新たな機能を持たせる意見を吸い上げる考え方も必要ではないかというのである。

(古川委員)

「新庁舎に求める新しい機能は何かありますか」でも良いのでは。それでも参考になるのでは。

(事務局)

ここでは施設設備・構造の視点での意見を求めることを考えていたので、今の意見は構造を検討する中で必要な視点であり、参考とさせていただきたい。

(古川委員)

施設構造を考えるきっかけになれば良いと思う。

(三島委員長)

〔問 1 2〕とは分けて考えても良いかもしれない。

(事務局)

整理させていただきたい。

(芹田委員)

自由記述的なものは〔問 1 3〕でとのことであったが、ここではこういうものを書いてもいいですよと、いくつか分かりやすく例示を示せば記入しやすいのでは。ただし、誘導にならないよう

に気をつける必要がある。

(事務局)

工夫したい。

(齊藤委員)

どれも当たり前のことが書かれている。優先順位をつけなくても実現可能な項目。「財政か贅沢か」など相反することが書かれていて、あなたはどちらを優先しますかと意見を問うことに意味があるのでは。これから何を拾い上げようとされているのか分かりにくい。

(事務局)

特に充実させなければならない部分を拾い上げたいと考え、設問している。例示することも考えたが、〔問13〕で、我々では気付かない市民の皆さんの意見を拾い上げる聞き方を検討したい。

(齊藤委員)

〔問13〕がメインのような気がする。

(三島委員長)

これまでの意見を踏まえ、工夫してほしい。

#### 7. 市庁舎の建設候補地の考え方について

(事務局)

説明

(松永委員)

防災の立場から言えば、消防本部、警察と合わせて、なるべく近い距離の方が災害発生時に有効に機能を発揮することができると感じている。

(三島委員長)

防災拠点の考え方の部分に、防災の観点で消防署と近接していることが重要であるという記載も必要。

(古川委員)

聞いていると、全ての条件に当てはまるのはこの場所しかないと思う、仮に今の場所に建て直すとした場合、この要件で合わないことがあるか。

(事務局)

合わないところはない。基本的な考え方としては、現在地に庁舎が建っており、現地が最有力候補であることには間違いない。それと比較検討する場所を今回検討することにしており、現地を基本としながら他の用地について検討させていただくこととしたい。

(齊藤委員)

今朝の新聞にあった用途制限ですが、審議会ですら簡単に変更できるということによろしいか。

(事務局)

建て替え以前の話で、現在、既に用途にあっていないことから、今年度、用地等の見直しについては検討を行う予定であり、その中で検討することとしている。

(齊藤委員)

問題ないという事でよろしいか。

(事務局)

はい。

(三島委員長)

この要件で候補地として現在地以外で検討にあがる場所はあるか。

(事務局)

資料の最後に示しているが、この考え方に基づく皆さまの意見をいただいたものを踏まえ、考えられる複数の候補地の絞り込みを行っていきたい。

(齊藤委員)

10,000㎡あれば十分なのか。

(事務局)

10,000㎡は最低限必要な広さと考えている。

(齊藤委員)

次回の8月の委員会で決定するのか。

(事務局)

本日、現在地以外の候補地をどう選考するかという選考の考え方について検討いただいております、承認いただければ、この考え方で10,000㎡以上の候補地を絞ってお示ししたい。

(古川委員)

ここ以外の候補地の選定となれば、スケジュール的に厳しいのでは。最優先すべきことは何かを決めなければいけないのでは。

(事務局)

ウの「経済性に優れていること」。このような考え方で選定させていただきたいという考え方を提案させていただいたところである。

(三島委員長)

大規模な造成とは、開発許可が不要な範囲など、どの程度のものまでを言っているのか。

(事務局)

附属物がある、移転補償が必要、不整地のための造成が伴うものなど。

(三島委員長)

開発行為というだけの話ではないということか。

(事務局)

はい。

(三島委員長)

この考えでいけば学校用地、都市公園は当然外れるのか。

(事務局)

入れておいても、この考え方で外れることになると思われる。

(齊藤委員)

該当地は何箇所もあるのか。

(事務局)

広さだけで言えば空き地含めかなりの数ある。ただし、その中には既に駐車場として利用されていたり、民地も含まれる。

(齊藤委員)

市有地を優先すると書かれているが、市有地はそんなにたくさんあるのか。

(事務局)

10箇所程度はある。ただ、その中には学校用地なども含まれるので実際の候補地は少なくなる。

(三島委員長)

小学校だと100m×120m位なので10,000㎡を越えるのであがってくると思われる。

(三島委員長)

人口重心とは、地域全体の重心地でよろしいか。

(事務局)

単純に市民の方が同じ重さと仮定した場合、ここで均衡が保たれるという場所。

(三島委員長)

人口重心とは、人口密度を考慮してのポイントなのかなど、どういう観点での人口重心かを記載した方が良いと思う。説明書きがあった方が良いと思う。

## 8. 今後の協議スケジュールについて

(三島委員長)

基本的考え方では基本計画の策定が平成30年度に掛かるようになっているが、どちらが正しいのか。

(事務局)

平成29年1月に基本的考え方を取りまとめたが、有利な制度(起債)を使いたいと考えているため先ほど委員長が言われたようにスケジュールについては圧縮を考えている。

(齊藤委員)

今回の委員会で平成32年に完成するスケジュールが示されるのか。

(事務局)

スケジュールについては工事手法などに係るため、セットで考えていく必要がある。事務局としては制度(起債)を活用したいため、計画は平成32年度完了として考えたい。

(齊藤委員)

どういう手法を駆使しても平成32年に完成させたいということによろしいか。そのために50年に一度の事業が禍根を残すことは良くない。50億円として10億円いただけることが大事なのか、50年の鳥栖市が大事なのか。

(三島委員長)

次回、建設候補地が議論される。そこの見通しがあるかないかで変わってくる。ここしかないという話になるかもしれないし、他の線もあるかもしれない。どれを優先するかという議論をしないと意見がなかなか集約されない。手法の議論にまではいかないかもしれないが、圧縮の可能性は示してもらったほうがよい。

(齊藤委員)

圧縮は正直厳しいというのが一つの意見なので。不可能であると聞いた。

(事務局)

次回、議論ができるような形にしたい。その時点で十分なものとはならないかもしれないが、資料は準備したい。

(古川委員)

こういう市有地があるという形でないと厳しい。次の委員会ではこの中から選ぶという形で。

(事務局)

候補地の考え方に従うと最終的には市有地しかない。

(齊藤委員)

仮にスケジュールの圧縮が難しく、起債が使えなければスケジュールは伸ばしてよいのか。何が何でも起債を使うというのであればスケジュールを示してもら方がよい。

(事務局)

昨日の基本計画策定支援業務のヒアリングの中でも平成32年度で十分できるという話をいただいている。次回どのような形でお示しできるか分からないが、ご議論いただけるような資料を提出したい。

(齊藤委員)

明確なものを示してもらえるとよい。

本委員会の役割を教えてください。何らかの決定権があるのか。心配することのみを言えばよいのか。

(事務局)

建設候補地について言えば、先ほど説明したように、候補地選定についての考え方を委員会で議論していただき、その考え方に基づく候補地を次回お示ししたい。その後、候補地を決定するための評価項目のご意見を伺い、それに基づいて評価したいと考えている。

(三島委員長)

私の理解で言えば、スケジュールにも書いてあるように意見書提出があるが、意見書の決定については委員会で行い、それを提出した上で基本計画の決定は市がする。意見書の中に候補地をどうしたらよいとか、こういう機能を加えて欲しいということはあるが、市の判断でこう決定するということになると思う。

## 9. 閉会